私は近年この萩が薩摩の山川と長崎鼻の海岸の断崖に多量産することを知った。学校で栽培もしているが高さは 1.5m 位となり普通の萩類と変りない程である。サツマハギの最も近い種類はミヤマハギの小枝に立毛の出るカワチハギで只花序が葉より称長い点で区別出来る。従って花序が短かくなった個体では区別がむつかしくなる。

(鹿児島大学農学部)

---

**○ソメイヨシノの実生品種** (大井次三郎) Jisaburo OHWI: Two new forms from seedlings of *Prunus yedoensis*

ソメイヨシノの由来についてはいろいろと議論されたが，結局エドヒガンとオオシマザクラ系との雑種ということに落ついたようである。三島の国立遺伝学研究所の竹中要博士はその由来を調べるために多数の実生を作ったが，そのなかで花つきがよくて美しく，親賞価値も十分で，将来は都市の空気の汚染に弱いソメイヨシノに代る品種ともなりえるようなものをつとめて育成された。ここにその二つを紹介したい。ミシマザクラは花が淡紅で若芽は茶色を帯び，スルガザクラは花が蕾時は微紅色を帯びるが開けば白色となり，若芽は緑色である。ともにソメイヨシノよりも毛が少なく，粘り気も弱く，花も色淡く，どちらかといえばオオシマザクラの系統の方が強くでている。

*Prunus yedoensis* Matsum. forma **mishima-zakura** Ohwi, f. nov.——Folia juniora fulvescentia, sparse pilosa; flores umbellati, magni, dilute rosei, calyxis tubo subtubuloso, pedicelloque piloso, staminibus 43-52, stylo sparse piloso.——Culta in Honshu: Mishima, leg. K. Takenaka, in herb. TNS.

*Prunus yedoensis* Matsum. forma **suruga-zakura** Ohwi, f. nov.——Folia etiam juniora viridia, sparse pilosa; flores umbellati, magni, albi, in alabastro dilutissime rosei, calyxis tubo subtubuloso, pedicelloque pilose, staminibus 37-40, stylo glabro.——Culta in Honshu: Mishima, leg. K. Takenaka, in herb. TNS.

(国立科学博物館)

---

**○オオフジシダにおける無性芽のできる位置について** (志村義雄) Yoshio SHIMURA: On the positions of gemma on the leaves of *Monachosorum flagellare* Hayata

*Monachosorum flagellare* Hayata (オオフジシダ) は日本特産種であり，本州の関東以西，四国，九州の暖地に分布する。このシダは葉の先，すなわち中軸の先がのびて無性芽を生じ，地について新苗ができる。この現象はこのシダのどの株にもみられるとは限らない。筆者はこの無性芽のできる位置につき，前記の状態とは異なるものを検しているので，これらの写真を付して報告しておく。以下記述する標本は，いずれも胞子嚢が破れ成葉である。各標本の羽片は全部そろっていなくて，一部が欠けている。さて無性芽のでる位置について，一応中軸に関係するものと，羽軸に関係するものに大別し，

前者を A, B, 後者を C, D, 合せて 4 階級に分類し，各標本例をあげて説明しておく。

A. 現在までに報告されている葉（中軸）の先がのびて，そこに無性芽のできているもの。図 1—2：静岡県水窟町下田・山王峡産，1961年 11月12日，志村義雄採。これは葉柄 12cm, 葉身 28cm, 葉巾 8cm であり，中軸の先端 1～1.5cm のところに，0.2～0.5cm の無性芽がある。特にこれは以下述べるものと比較のために掲載した。

B. 中軸側面に無性芽ができているもの。(イ) 図 3—4：静岡県加茂郡西伊豆町白川岐産，1959年3月27日，脇田圀輝採。これは葉柄 25cm, 葉身 52cm, 葉巾 23cm で，その葉身先端部はすんなりのびている。先端から下部へ 4.2cm（この標本において）の中軸側面，羽片の分岐点に無性芽が 1 個ある。その大きさは径 0.2cm, 長さ 0.5cm で，1 本の細い根がでて，その芽の周囲を 1 まわりまいている。(ロ) 図 5—6：新潟県北蒲原郡上石川村三階滝産，1962年10月21日，鈴木俊夫採。これは葉柄 20cm, 葉身 60cm, 葉巾 33 cm, であり，この先端から下部へ 0.8cm の中軸側面，羽軸の分岐点に，径 0.4cm, 長さ 0.5cm のムカゴ状体ができている。(ハ) 静岡県加茂郡西伊豆町白川岐産，1950年12月17日，行方富太郎採。これは葉柄 19cm, 葉身 35cm, 葉巾 13cm である。この先端から下部へ 1.3cm の中軸上に，径 0.15cm, 長さ 0.4cm の小形のものができている。

C. 羽軸の先がのびて，そこに無性芽ができているもの。(イ) 図 7～8：静岡県加茂郡河津町沼の川～白川岐産，1961年3月25日，山本利興採。これは葉柄 27cm, 葉身 57cm, 葉巾 28cm である。この左側（図 7 では右側）の下から 第 2, 4, 5, 6, 9, 10, 12, の各羽片，右側の同様第 2, 5, 6, 8, 9, 11, 12 の各羽片の先がのびて，それぞれ無性芽ができている。図 8 にみられるように，根の生えているのもある。各無性芽の葉部の大きさは 2cm 以下，根部のそれは 3cm 以下である。(ロ) 図 9：静岡県加茂郡西伊豆町白川岐産，1959年3月27日，脇用圀輝採。これは葉柄 19cm, 葉身 37cm, 葉巾 20cm である。この左側の下から第 1, 2, 3, 4, 5, 6, 16 の各羽片，右側の同様第 1, 3, 4, 15, の各羽片の先がのびて無性芽ができている。その大きさは葉部，根部を含めて 0.1cm から 1.5cm までである。(ハ) 図 5：新潟県北蒲原郡上石川村三階滝産。この左側の下から第 3 羽片，右側の同様第 1, 2, 3, 4, 5 の羽片の先がのびて無性芽の小形な原基が明瞭にできている。

D. 羽軸上に無性芽ができているもの。図 9—10：静岡県加茂郡西伊豆町白川岐産。これは C—(ニ)と同一標本である。この標本の右側の下から第 6, 7, 8 の羽片の中軸上にできている。この各先端から下部へ，0.7cm～1.6cm のところに，0.1cm～0.4cm の大きさのものがある。

以上の各例にみられるように，オオフジシダは中軸の先（葉身）がのびて無性芽ができるもの以外に，中軸上，羽軸上，および羽軸の先がのびて，これができていた。すなわちこのシダの無性芽は，葉身の上記の各場所に生ずる性質があるように思われる。恐らく，自生する各地において，特にこの点に注意して採集し詳細に観察したならば，こ

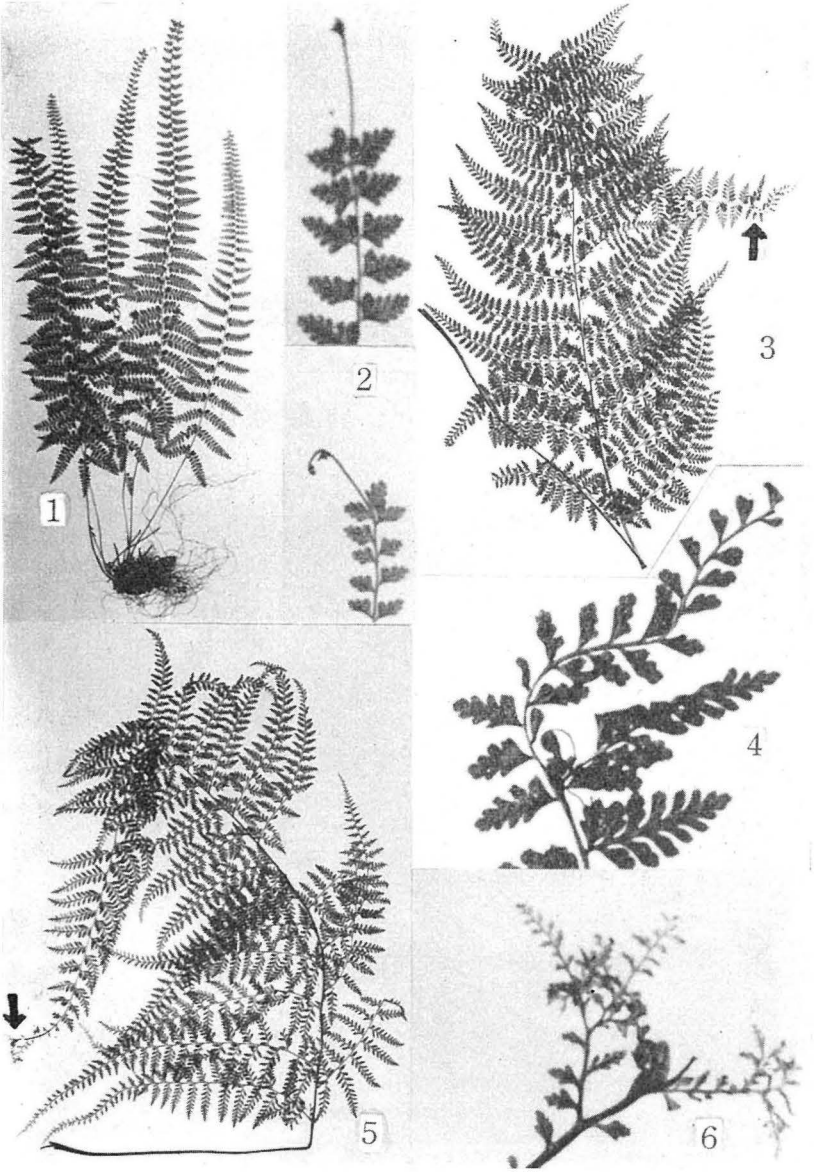


図 1—6. オオフジシダの無性芽. 説明は本文参照.

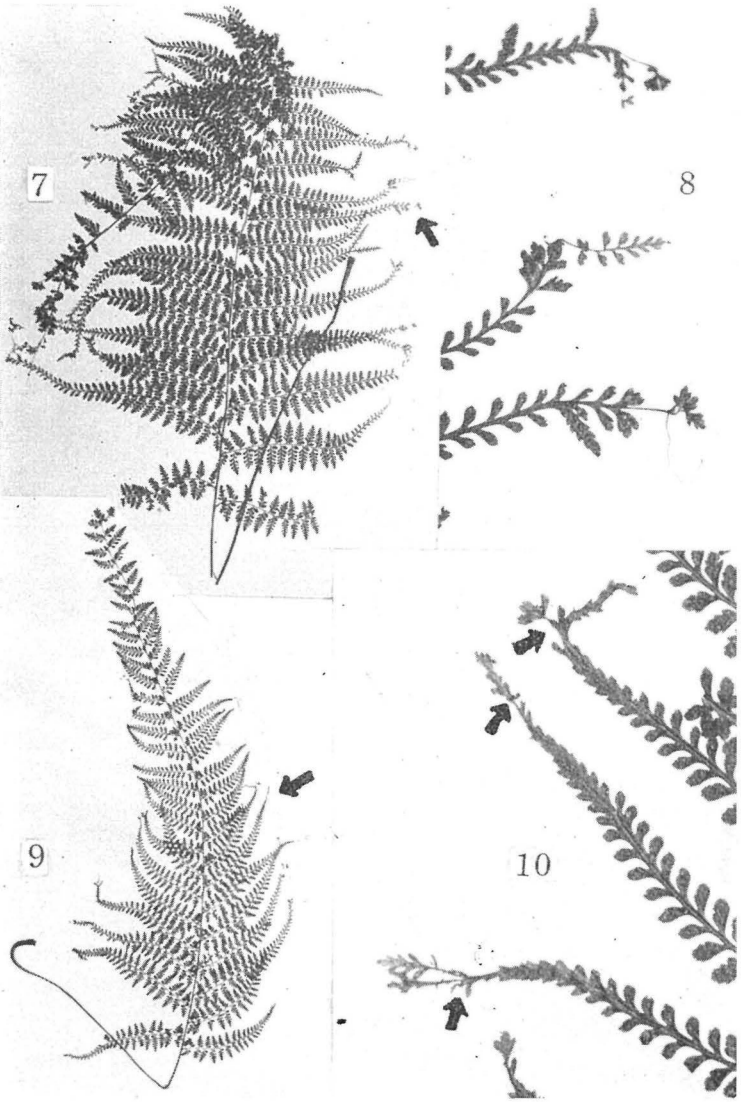


図　7—10. オオフジシダの無性芽. 説明は本文参照.

のような例は多くみつかるであろう。終りに，資料を恵与された各位に対して，深謝の意を表する。

(静岡大学教育学部生物教室)